

<金標準、雇用統計を受けた利下げ確実視の円高の悪影響・・・>



(出所：オアシス)

8月の日銀金融政策決定会合で政策金利を0.15%引き上げ実施し、0.25%へ変更するなど為替市場では円キャリーの転換点を示唆する内容となり、8月末にはGFTC統計の投機筋の米ドル・ポジションは売り越しに転換している。特に植田日銀総裁は経済財政諮問会議で物価の見通しが実現していくとすれば「引き続き政策金利を引き上げ、金融緩和の度合いを調整」する方針を改めて示している。また週末の米国雇用統計では、非農業部門雇用者数が事前予想を下回る14.2万人増、前月も11.4万人増を8.9万人増へ下方修正するなど労働市場の低迷からインフレを刺激する動きもなく、9月には景気に配慮した利下げの根拠を得た様に思われ、為替市場では一時141円台を試す円高・ドル安の動きを見せている。特にFRBと日銀の金融政策の違いを受けた円安・ドル高の恩恵を受けて買われ続けた金標準先物は、日米間の金融政策の変更を受け円高の動きに高値追いが止まり、行き過ぎた高値追いの修正が続くと思え、11000円に向けた値動きに注意が必要と思える。

<テクニカル>

金標準先物の日足のMACDでは、MACDが切り下げ、シグナルも切り下げている。RCIでは短期が下げながら、長期も切り下げだしている。特に日足は10日移動平均線を下回り、10日移動平均線も下げるなど戻り売りの動きに注意した方が良いと思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 1,340,000 円(2024 年 9 月 9 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 68,640 円(2024 年 9 月 9 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>